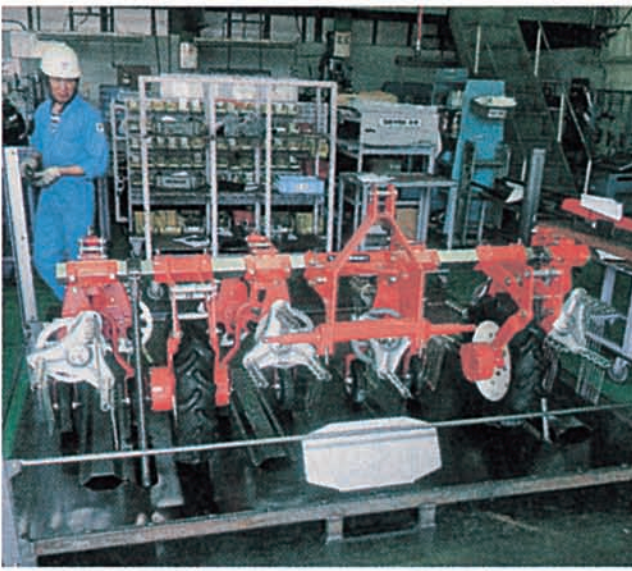


# 東洋農機

## 海外進出視野に出展

### ドイツ展示会、5社共同で



東洋農機がドイツでの展示会に出品する除草機

東洋農機（帯広市、山田政功社長）など道農業機械工業会の会員企業5社が、海外展開を視野に、11月にドイツで開かれる国際展示会に出展する。中小企業の海外進出を支援する経済産業省の助成事業を受け、小型、高機能の畑作用農業機械をPRする。中小企業が共同で事業展開することでブランド力や流通効率を高め、今後3年間で海外への進出を目指す。

道農業機械工業会（32社）が経産省のJAPANブランド育成支援事業に採択され、海外展開を希望する会員に参加を呼び掛けた。同事業の支援期間は最長3年間。初年度となる今年度は海外展開への足掛かりとして、ド

エフ・イー（旭川市）、オサタ農機（富良野市）、サンエイ工業（オホーツク管内斜里町）。会場内に設置するブースジャパン・パビリオンで農機の展示、企業PRを行う。

同会によると農業機械は輸入が多く、輸出は大手企業によるものがほとんど。中小企業でもアジアへの輸出を探る動きが近年出始めている。

東洋農機は過去に中国での販売を行った経緯があるが、ヨーロッパを含めた幅広い地域への進出の可能性を探る。出展するのは除草機で、ヨーロッパにはないタイプの機械。出品を通して、海外のディーラー、メーカー、バイヤーの反応を探り、販路開拓のための関係づくりを図る。

同社営業部の三好智博次長は「国内市場が縮小する中、海外販路の可能性を探りたい。商品を売り込むだけでなく、海外業者との交流を深めて今後につなげられれば」と

話している。東洋農機は1909年創業で農機具メーカーの地元大手。資本金は1億8000万円。畑作用の機械がメイン。  
（眞尾敦）